



「コロナに負けるな！」

未来を 京都と子どもたちの明るい

Morita Mamoru Reportage

京都市議員

森田 守

まもるポ

Vol.7
2021.7月

令和2年9月市会代表質問



京都市への 退職自衛官の採用

Q 森田守 自衛官は日本の平和と独立を守るために、国の防衛や災害派遣、国際平和協力など特殊な任務に就かれており、屈強さを保つという観点から、多くの方が50代半ばで退職されます。その勤務経験を通じて得られた専門的知識、能力、経験を京都市で発揮していただきたい。

自衛隊、京都府、京都市、警察や消防、さらに企業等を含めて縦横のネットワークを構築し、強しな防災・危機管理対応の体制を実現するために、是非とも退職自衛官の京都市への採用を実現すべきと考えますがいかがですか。

A 岡田副市長 退職自衛官は、防災・危機管理のスペシャリストであり、災害発生時には自衛隊等の国の機関とのスピーディーな連携や調整、現場に即した的確な助言、指導等に貢献していただくことが期待できます。あわせて、平時時には、地域防災計画や業務継続計画、国民保護計画の点検、見直し、また、近年頻発する水害等を想定した効果的な訓練の実施、本市職員の危機管理意識の向上などに力を発揮していただけるものと考えております。

こうしたことを踏まえまして、令和3年度に退職自衛官を採用し、より強固な防災・危機管理体制を構築することにより、市民、事業者の皆様への命と暮らしを全力で守ってまいります。



府市協調

Q 森田守 京都府の各種施策から京都府市だけが除かれる、または、補助額や補助率が他の府下市町村と比較して差を付けられているいわゆる差等補助の問題です。京都府の施策には、京都市と他の府下市町村の間に法的根拠のない格差があるものがあるお存在しています。

京都市民も京都府民です。同じ府民税を負担している京都市民に対して法的根拠のない格差を生じさせないよう、知事、市長はもちろんのこと、事務レベルでの連携を層推し進め、府市協調を新たなステージへ進化させるべきだと考えますがいかがですか。

A 門川市長 森田議員御指摘のとおり、今なお、格差が存在していることも事実でございます。京都市民も京都府民であり、府内人口の56パーセントを京都市民が占めております。さらに、新型コロナウイルスの感染者も、大都市である本市で多く発生し、飲食業、宿泊業等への影響も深刻であるため、市民の命と健康、暮らしを守り、経済を守るために、本市が大きな役割を果たさなければなりません。

そうした状況を踏まえ、改めて、法的根拠のない格差を生じさせないという認識を府市で共有し、府市協調から府市丸へ本市と京都府がそれぞれの強みをいかし、京都全体の更なる発展につなげていく新たなステージへと進化させてまいります。

災害に強い道路づくり

Q 森田守 国道162号については、緊急輸送道路でありながら災害に対して強じんであるとは言えないうえに、京都市が責任を持って災害時の復旧や道路の維持管理に当たらなければなりません。そのため、これまでから国道162号においては、右京区梅ヶ畑川東地域の杉の里トンネル、京北細野、周山地域の京北トンネルの供用開始や、高雄地域の道路改良第1工区、第3工区の完成など、トンネル、バイパス事業を実施してこられました。

一方、京都市と京北町が合併した際の京都市・京北町合併建設計画では川東地域の道路拡幅事業を推進すると明記されていたにもかかわらず、第1工区は完成したものの、合併から15年が経過した現在でも第2工区については着工にすら至っていません。

このような状況を踏まえ、国道162号の強じん化をはじめ、より災害に強い道路造りに臨んでいただきたいかがですか。

A 鈴木副市長 近年、災害が激甚化する傾向にある中、平成30年度と比べ、道路の災害防除に関する予算を6割増とし、防災機能の強化を図ってきているところであります。森田議員御指摘の国道162号は、予算を平成30年度に比べ倍増させ、重点的かつスピード感を持って、災害の防除に取り組んでおります。さらに、右京区梅ヶ畑川東地域において、災害発生のおそれがある6箇所の回避と、円滑な交通の確保に向け、二つのトンネル、二つの橋から成る、延長約1.3キロメートルのバイパス工事に今年度から着手し、抜本的な対策を講じてまいります。

森田 守 プロフィール

昭和50年 6月15日生まれ
平成6年 同志社香里高等学校卒業
平成10年 同志社大学法学部法律学科卒業

平成10年 ㈱セブーン・イレブン・ジャパン入社
平成16年 参議院議員二之湯智秘書
平成27年 京都市議員初当選

平成31年 京都市議員2期目
家族構成 妻、子ども5人の7人家族
趣味 スキー、アウトドア、マラソン

